

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成23年度 技術情報第5号(早期水稻のいもち病)について(送付)

早期水稻のいもち病について、下記のとおり取りまとめましたので送付します。

平成23年度 技術情報第5号

1 対象病害虫 いもち病

2 対象作物 早期水稻

3 情報の内容

葉いもちの発生程度が高いほ場が南薩，大隅地域で確認された。今後も曇りや雨の日が続く，いもち病菌の活動に好適な条件になると予想され，いもち病の発生が多くなると考えられる。

葉いもちは穂いもちの発生に直接つながりやすいので，早期発見に努め，発生を認めたら防除を行う。

4 発生状況及び情報の根拠

- (1) 6月中旬の調査において，発生ほ場率は約30%であった(第1表)。
- (2) 特に大隅地域での発生が多く，発生程度が多～中のほ場もみられる(第1表)。
- (3) 九州南部地方の向こう1か月の気象予報(6月10日鹿児島地方気象台発表)によると，平年と同様に曇りや雨の日が多く，気温は平年並か高いと予想されている。

第1表 早期水稻ほ場におけるいもち病の地域別，発生程度別割合(2011.6.15～16 調査)

地域	調査ほ場数	発生 ¹⁾ ほ場率(%)	発生程度別割合(%)				
			甚	多	中	少	無
南薩	98	13.3	0.0	0.0	0.0	13.3	86.7
大隅	145	40.7	0.0	1.4	16.6	22.8	59.3
両地域計	243	29.6	0.0	0.8	9.9	18.9	70.4

1) 発生ほ場率(%) = $\frac{\text{発生ほ場数}}{\text{調査ほ場数}} \times 100$

調査地点 南薩：南さつま市(加世田，大浦，金峰)，日置市(日吉，吹上)

大隅：鹿屋市(串良，吾平)，東串良町，肝付町(高山)，錦江町(田代)，志布志市(有明)，大崎町

調査方法 ほ場における病斑の見とり調査

発生程度 甚：下葉は枯死し，完全なずり込み症状を呈する(病斑面積率 50%以上)，多：かなり病斑がみられ軽いずり込み症状を呈する(病斑面積率 10%程度)，中：病斑がかなりみられる(病斑面積率 2%程度)，少：病斑がわずかにみられる(病斑面積率 0.5%程度)，無：病斑なし

5 防除上注意すべき事項

- (1) 粉剤または液剤による穂いもち防除は，穂ばらみ期と穂ぞろい期の2回実施する。
- (2) 粒剤による穂いもち防除を行ったほ場でも，出穂後不順な天候が続く場合は，穂ぞろい期に粉剤または液剤による補完防除を行う。
- (3) 防除時期を失しないように注意する。